



Program

1. 村祭りの風景

ブルガリアの村祭りでは、あちこちから音楽が聞こえてきます。

2. チェトヴォルノ

(シヨプ地方の踊り)

3. 楽器紹介

4. スタラザゴルスカ・ラチェニツァ

(トラキア地方・スタラザゴラの踊り)

5. 衣装紹介

6. 歌

ダイシ バセ
ロゾロザノ イ ジョレドス
ステミエ

7. トラキスカスータ

(トラキア地方の踊りのメドレー)

歌の意味については裏面をごらんください

**Ensemble LILYANA presents
Traditional Bulgarian dance and music**

【タパン】
ブルガリアのほぼ全域で使われる大太鼓です。

【ガドゥルカ】
バイオリンの仲間です、音を共鳴させるための弦が10本もあり、素朴かつ迫力のある音色が特徴です。

【ガイダ】
ブルガリア全域で使われる羊の皮で出来たバグパイプです。

【カヴァル】
尺八に似た木管楽器です。ブルガリアのみならず、トルコや東ヨーロッパの広い地域で使われています。

【タンブーラ】
ブルガリアを始め、マケドニアなどの近隣の国でも使われる首の長いギターです。リズムも主旋律も、なんでもござれ！

ご挨拶にかえて

東ヨーロッパの国々は、私達日本人にとり、まだまだ一般的ではありません。とりわけブルガリアは、ほとんど馴染みが無い国の一つでしょう。しかしながら、一度足を踏み入ると、まだ壊されず残っている何とも懐かしい温かな感覚…複雑な地理・長い歴史の織り成す文化の豊かさに、すっかり心奪われてしまうのです。もしも皆様がブルガリアに行かれた際には、きっと華麗な民族舞踊と独特の民族音楽を楽しめることと思います。今日は、そのさわりの気分だけでも味わって頂けると、幸いに存じます。

アンサンブル・リリヤナー同



ブルガリアの踊りに出会って、15年になります。

今は、細々ながら踊りに加え、ガドゥルカという民族楽器と現地であらった歌を、仲間たちと楽しんでいます。

”ブルガリア”の民族舞踊にはじめてであったのは、大学の1年生のころ。たくさんの国の民族舞踊を踊るサークルに所属したのがきっかけです。

いろんな国の中でブルガリアの踊りは、大変人気がありました。きっとすばやい足裁きを自分のものにできたときの満足感はもちろん、音楽に身体がのせられる心地よさが一番よかったからかもしれません。

それぞれの楽器の音色の素朴な響きに、現地の人々の慎ましやかな生活が忍ばれます。ブルガリアを訪れたときの小高い山の斜面に集う人々は、子どものころ好きだった”おとぎ話”のなかに入り込んでしまったかのような、そんな幸せそうな光景でした。

私たちは、生活のなかで根付いたブルガリアの踊りや歌のすばらしさを見るだけでなく、感じて楽しんでいます。今日の公演でおす分けできましたでしょうか？

ダンサーに訊いてみました

何故、よりによってブルガリアの生の声をかきとりたいのか？

ブルガリアのダンスの爽快感は、スポーツに似ています。音楽に合わせて身体を動かしているのが、とにかく楽しい。それもただの音楽ではなく、変拍子(7だったり13だったり)など独特のリズムがあり、とても面白い。ピタッと音と身体が合った時は、それは気持ちがいいです。

リリヤナのダンサーは、ほとんどが大学のフォークダンスサークル出身者です。僕もそうなのですが、サークル出身者で社会人になってもフォークダンスを続けている人は、周囲を見渡しても、ブルガリアかハンガリーが多いように思います。この2国は特に、本国が力を入れていましたから、ダンスの保存度や舞台の完成度が高く、人気があるのです。僕はたまたまブルガリアが性に合ったのですが、現地でプロのダンサーに教えてもらったりして、更に惹かれ、少しでも彼らの身体の動きに近付きたいという一心で今も踊り続けています。

スポーツに似ていると書きましたが、メンバーが揃って練習を積み重ね、構成や振り付けも全部自分達で試行錯誤していくのは、普通のスポーツとはまた別の充実感があります。スキーやテニスも好きだけど、ダンスは絶対やめられません！



リリヤナ便り

字が小さくてごめんなさい！
お時間があるときに、どうぞ。



ブルガリアでダンスのセミナーを受けるため、2000年の夏、初めて行ってきました。ソフィアは割と都会的な感じ。ホテルやビルなど、建物やお店でにぎわってました。レストランでは、本物の民族舞踊や音楽を見ることができてよかった！o(^-^o
リラの僧院は荘厳で感動・・・
プロブディフではちょうどフェスティバルがあって、円形劇場でショーを見れたのもぜいたくな気分でした(8月)。

ブルガリアの伝統文化は、スラブ系民族の伝統を源に、ビザンツ、オスマントルコなどの文化要素を摂取した、極めて国際的な性格を有します。かつての共産主義政権の下では、民族芸術が国家により保護・育成され、世界に名だたる「ブルガリアンヴォイス」を生むなどの成果を残しました。資本主義体制に移行して15年ほど経った現在、以前は禁じられていた外来のポップスが街角に流れ、人々の音楽的嗜好も多様化しつつある一方、伝統芸術に関わる音楽家や舞踊家が、国家の支援を十分に受けられずに廃業している現実もあります。

街並みがおもしろいのはベリコタルノボです。段々に連なってる丘が特長で、日本でいうと尾道のイメージ。ブルガリアを旅するときは、歩きやすい靴で！

歌の概要

こんな内容の歌です。

:ダイシバセ:
バセ(少女の名)、
あなたの心をください
あなたの愛をください

:ロゾロザノ:
ぶどうの種を植えましょう
でもそれは食べるためではなく
おいしいワインにして
1つは親しい隣りにして
1つは厳粛な結婚式に
:ジョレドス:
ジョレ(少女の名)、
誰の靴下を編んでいるの？
私の未来の花婿よ

:スデミエ:
一面高く晴れ上がった空の下で、
2人の花嫁が踊っている
1人の花嫁のお母さんは喜んでいるよ
娘の嫁ぎ先が近いから
もう一人の花嫁のお母さんは悲しんでいるよ
その娘は遠くへ嫁いで行ってしまふから



アンサンブル・リリヤナは、首都圏で活動するフォークダンスサーを中心に、1998年に結成されました。ブルガリアの歌・踊り・演奏を、すべて自分たちの手により生で表現し、毎年様々な舞台でパフォーマンスしています。(リリヤナオフィシャルホームページより)

<http://www.ii-park.net/~lilyana/index.html>